

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.107

2014.9.4

発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

抗議文書や  
ハガキ運動で

## 集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を求め行動

松園9条の会

松園9条の会では、7月1日の集団的自衛権の行使容認を閣議決定で強行した安倍首相に対し、抗議と撤回の文書を送りました。また、個人的意思表示の方法として、「集団的自衛権閣議決定の撤回を求める」ハガキを配布し、各自切手を貼って送付するようにしたところ、約80人がハガキを送りました。

毎月ベルフまつぞの店で街宣署名行動を行っていますが、7月15日には、パネル5つ、のぼり2つを掲げ、宣伝チラシを配布し、参加者が一言発言を行うリレートークの形で思いを訴えました。12名が参加し、署名61筆を集め、ハガキも16枚集まりました。このときは怒りの反応が多く、盛岡での戦争の傷跡、青森県三沢基地の果たす役割を体験にもとづき話しかけてくる方もいました。



また、8月9日も宣伝行動を行いました。8名が参加し、51筆の署名が集まりました。若いお母さんと年配の女性にいつもより大きな反応がありました。

今後はお店に来る人への宣伝だけではなく、地域に出ることも考える必要があると思っています。また、中学生を対象にした取り組みができないかと考えています。



国民を「見ざる（猿）、聞かざる、言わざる」にして闊歩するのは誰か？

—秘密保護法（その5）

秘密保護法が成立後、その危険性からその廃止を求める運動の発展が続いています。それはもっともなことだと思います。—

「2014年7月1日」を決して忘れてはなりません。日本国憲法を骨抜きにして日本を「戦争できる国」にした安倍自公政権とその勢力を一人残らず忘れてはなりません。そしてこの日は、「集団的自衛権の行使容認」の「閣議決定」がなされ、国家安全保障会議の発足と秘密保護法の成立が一体のものであることも明らかになった日でもありました。正に戦前の侵略戦争推進態勢であり、許してはならないものと思います。

戦前の治安維持法をはじめ秘密保護体制のもとで、国民は「防衛」「外交」について「見ざる（猿）、聞かざる、言わざる」の状態にされて、全権大使松岡洋右氏の「国際連盟脱退演説」を、日の丸の小旗を打ち振って歓迎させられました。このことは日本国憲法前文でしっかりと謳われています。

秘密保護法は「一年以内の施行」ということでまだ施行していません。しかし、その廃止を求める運動は急がなければなりません。日本国憲法どおり「戦争しない国」であることは国民のためになることであり、世界に信用され続けることだからです。

「2014年7月1日」を決して忘れてはならない、その思いが日に日に強まるこの頃であります。 (T)

今月の署名行動

9月の街頭署名活動は、9日（火）12:00~12:30盛岡市大通野村證券前で行います。暑い日も過ぎ、過ごし易くなって来ました。短時間となりますので、元気に行きましょう。



# 広島・長崎から戦争の過ちを学び、戦争のない世界を！

○原爆の悲劇を二度と起こさないために、学び、伝えたい～

ピースアクション in ヒロシマ

毎年8月に全国の生協組合員が集まる「ピースアクション in ヒロシマ」(8月4～6日)に参加し、被爆者



今年参加のみなさん。右から3番目が壮君。

の証言を聞いたり、遺跡・碑や平和記念資料館などをまわりました。

被爆された瀬木正孝さんの証言は、とても心に響きました。被爆した方は皮膚がはがれ、引きずると痛いので両手を前にあげて歩いていたり、家族に会いたい思いで死体が転がる廃墟の街を何日も探しまわったことを聞き、もし自分の家族がいなくなったら…と一歩立ち止まって考えることができました。

8月6日の平和記念式典で、広島市長の「核兵器の廃絶と世界恒久平和実現のため、世界の人々とともに力を尽くす」という言葉にとっても感動しました。また、平和記念資料館にある数々の遺品をみて、戦争だけでもおそろしいのに核兵器はもっとおそろしいと思ったし、これ以上戦争で亡くなる方と被爆国が増えてほしくないと感じました。

今回ヒロシマに来て、戦争の悲惨さと平和への願いを継承していく必要性がわかりました。そしてそれは、唯一の被爆国である日本から始めなければなりません。まず私ができることは、瀬木さんをはじめとする被爆者の声を友人や先生たちに話し、伝え広げていくことです。戦争と核兵器を世界からなくしていく活動に、自分も協力していきたいと思いました。

いわて生協 菅野壮君 (14歳)

○核兵器のない平和な世界を～

原水爆禁止 2014 世界大会 in 広島

8月4～6日、広島で原水爆禁止世界大会が開催されました。4日は開会総会の後、広島総合体育館・小アリーナで青年の集いと文化の夕べが行われ、被爆者の証言を聴きました。その中で「核兵器はその時だけでなく、徐々に徐々に人間の体をむしばんでいく。今なお続いている。過去のことではない。また繰り返されるかもしれない。全てを体験できない。だから、想像してほしい。」と話された事が頭から離れません。

5日は動く分科会「似島少年少女の集い」に参加しました。似島は、広島港から正面に見える「富士山に似た島」「荷物を下ろすところで荷の島」とのいわれがあり、戦争のために重要な検疫所、弾薬庫として使われていました。原爆投下の8月6日、瀕死の傷を負った1万人もの被爆者が送られ、治療もままならず、6,000人を超える人々が、無念の死を遂げたと言われています。戦争を支えるために作られた多くの施設が遺跡として残されており、被爆者への思いを込めた碑などから当時の様子を伺うことが出来ました。

6日の平和記念式典では、広島市長の平和宣言で、「4人の被爆体験を含め、核兵器廃絶と世界平和実現へのNPT体制を強化する役割があること、日本国憲法の崇高な平和主義のもとで69年間戦争をしなかった事実を、重く受け止める必要があること」が話されました。こども代表の平和の誓いでは、「当たり前であることが平和なのだ気がついた」「出来ることから始める勇気がある」「たくさんの違う考えが平和への大きな力となることを信じている」と話され、心に残っています。

3日間のこの大会は、NPT再検討会議に向けて「私たちにもなにか出来るかもしれない」と思わせてくれる、強いうねりを感じる事が出来た大会でした。初めての広島は、知らないことがたくさんあり、学びの多い3日間でした。



岩手県医療局労働組合 佐々木千昭さん